



## 2021年度 上海交通大学オンラインサマープログラム 報告書

責任者：矢口 祐人  
報告書作成者：下山田 翔

 GO GLOBAL GATEWAY  
東京大学国際総合力認定制度

## 目次

|                        |    |
|------------------------|----|
| プログラム概要 .....          | 3  |
| 実施時期 .....             | 3  |
| 東大生参加人数と属性.....        | 3  |
| 中国語授業のレベル別クラス構成 .....  | 4  |
| 研究グループの構成 .....        | 4  |
| 日程.....                | 5  |
| 事後アンケート結果 .....        | 8  |
| 各セッションの満足度.....        | 8  |
| 中国語クラス.....            | 9  |
| 中国語クラスについての所見 .....    | 9  |
| 学術交流セッション .....        | 10 |
| 学術交流セッションについての所見 ..... | 10 |
| 参加前後での能力や態度の変化.....    | 11 |
| 能力や態度の変化に関連する所見.....   | 12 |

## プログラム概要

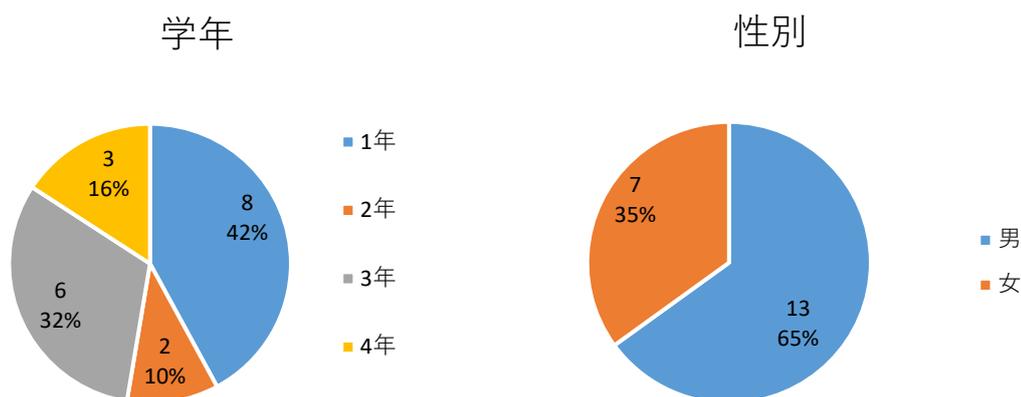
国際経験の浅い学生を対象とし、中国語学習と、専門的な科目を英語で学ぶことのできる機会を提供した。中国語授業はレベル別（初級・中級・上級）に開講し、東大からのすべての参加学生が集中的に中国語技能の向上に努めた。英語で専門科目を学ぶセッションでは、両大学の教授陣5名が「学術グループ」を担当し、「法律」、「生物医学」、「電気電子工学」、「DXとジェンダー」、「レジャー・ツーリズムスタディーズ」という5つの学問領域について基礎的な授業を実施した。最終日には、成果報告として両大学の学生が合同でプレゼンテーションを行い、学生同士が英語で協働する経験を提供した。また、中国文化について学ぶことのできるワークショップや、現地の民間企業など外部のゲストスピーカーを招いて行われた特別講演も行うことで、将来の長期留学や海外での就労経験に向けての動機づけを狙った。

## 実施時期

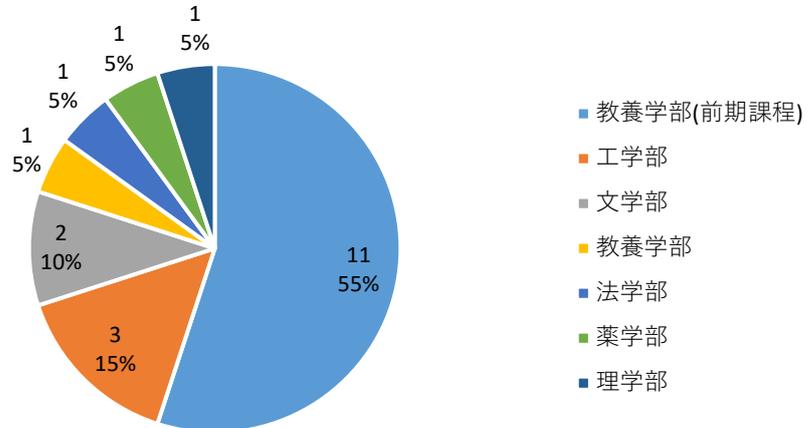
2021年8月23日～29日

## 東大生参加人数と属性

20名



## 所属



## 中国語授業のレベル別クラス構成

|    |     |
|----|-----|
| 初級 | 6名  |
| 中級 | 10名 |
| 上級 | 4名  |

## 研究グループの構成

| 担当教員              | 研究テーマ                              |
|-------------------|------------------------------------|
| 張 延（上海交通大学 教授）    | システム生物医学(新型コロナウイルスのワクチン)           |
| 鄒 衛文（上海交通大学 教授）   | 電子情報・電気工学（ノン・オプティカル ニューラルネットワーク）   |
| 朱 翹楚（上海交通大学 講師）   | 法律（デジタル時代の個人情報保護法）                 |
| 佐野 敦子（東京大学 特任研究員） | 社会デザイン学（DXで社会をジェンダー平等にする）          |
| 下山田 翔（東京大学 特任助教）  | レジャー・ツーリズムスタディーズ（ポストコロナ禍を見越した観光復興） |

- すべてのグループに東大生4名と上海交通大生4名が所属

## 日程

| 8月23日(月)      |           |  |
|---------------|-----------|--|
| 時間            | アクティビティ   | 内容   |
| 9:30 - 10:00  | 開幕式       | 両校代表者挨拶<br>上海交通大学 国際交流与合作処<br>羅 鵬 処長<br>東京大学 国際化教育支援室<br>矢口 祐人 室長                                  |
| 10:10 - 12:00 | 中国語クラス    | 初級・中級・上級に分かれて学習  |
| 昼休み           |           |  |
| 13:30 - 15:10 | 学術交流セッション | 5つの研究グループに分かれて上海交通大学大生と共に学習  |
| 15:20 - 16:50 | 特別講演会     | 上海交通大学 日本研究センター<br>季 衛東 センター長<br>「上海交通大学と日本の交流について」<br><br>JICA 中国事務所<br>佐佐木 美穂 所長<br>「中国の発展と ODA」 |

| 8月24日(火)      |           |  |
|---------------|-----------|--|
| 時間            | アクティビティ   | 内容   |
| 9:00 - 11:35  | 中国語クラス    | 初級・中級・上級に分かれて学習  |
| 昼休み           |           |  |
| 13:30 - 14:15 | 学術交流セッション | 5つの研究グループに分かれて上海交通大学大生と共に学習                              |
| 14:25 - 15:55 | 特別講演会     | パナソニック株式会社 中国・北東アジア社<br>本間 哲朗 社長<br>「中国におけるサステイナブル経営の取組」 |
| 16:05 - 16:50 | 学術交流セッション | 5つの研究グループに分かれて上海交通大学大生と共に学習                              |

| 8月25日(水)     |         |                 |
|--------------|---------|-----------------|
| 時間           | アクティビティ | 内容              |
| 9:00 - 11:35 | 中国語クラス  | 初級・中級・上級に分かれて学習 |
| 昼休み          |         |                 |

|               |           |  |
|---------------|-----------|--|
| 13:30 - 15:10 | 学術交流セッション | 5 つの研究グループに分かれて上海交通大生と共に学習   |
| 15:20 - 16:50 | 特別講演会     | 2025 年日本国際博覧会協会 広報戦略局<br>戦略事業部 戦略事業課<br>荒木 登 課長代理<br>「2025 年日本国際博覧会について」 |

### 8月26日(木)

|               |           |   |
|---------------|-----------|---|
| 9:00 - 11:35  | 中国語クラス    | 初級・中級・上級に分かれて学習                           |
| 昼休み           |           |   |
| 13:30 - 15:10 | 学術交流セッション | 5 つの研究グループに分かれて上海交通大生と共に学習<br>各グループ中間発表   |
| 15:20 - 16:50 | 中国語の歌の練習  | 上海交通大学 外国語学院<br>金 文峰 先生<br>「友谊地久天长 (蛍の光)」 |

### 8月27日(金)

|               |           |   |
|---------------|-----------|---|
| 9:00 - 11:35  | 中国語クラス    | 初級・中級・上級に分かれて学習                                 |
| 昼休み           |           |   |
| 13:30 - 15:10 | 学術交流セッション | 5 つの研究グループに分かれて上海交通大生と共に学習                      |
| 15:20 - 16:50 | 中国文化体験    | 上海交通大学体育学科<br>王 会儒 先生<br>「五禽戯 (太極拳のような健康法) の体験」 |

### 8月28日(土)

|               |           |                            |
|---------------|-----------|----------------------------|
| 9:00 - 11:35  | 中国語クラス    | 初級・中級・上級に分かれて学習            |
| 昼休み           |           |                            |
| 13:30 - 15:10 | 学術交流セッション | 5 つの研究グループに分かれて上海交通大生と共に学習 |
| 15:20 - 16:50 | 特別講演会     | 上海銀杏会メンバーによる座談会            |

### 8月29日(日)

|              |        |                 |
|--------------|--------|-----------------|
| 9:00 - 11:35 | 中国語クラス | 初級・中級・上級に分かれて学習 |
|--------------|--------|-----------------|

|               |         |            |
|---------------|---------|------------|
| 昼休み           |         |            |
| 13:30 – 15:00 | 最終成果報告会 | 各グループの研究発表 |
| 15:10 – 15:50 | 修了式     | 修了証の授与     |



中国語授業の様子

**The Classification of Viruses**

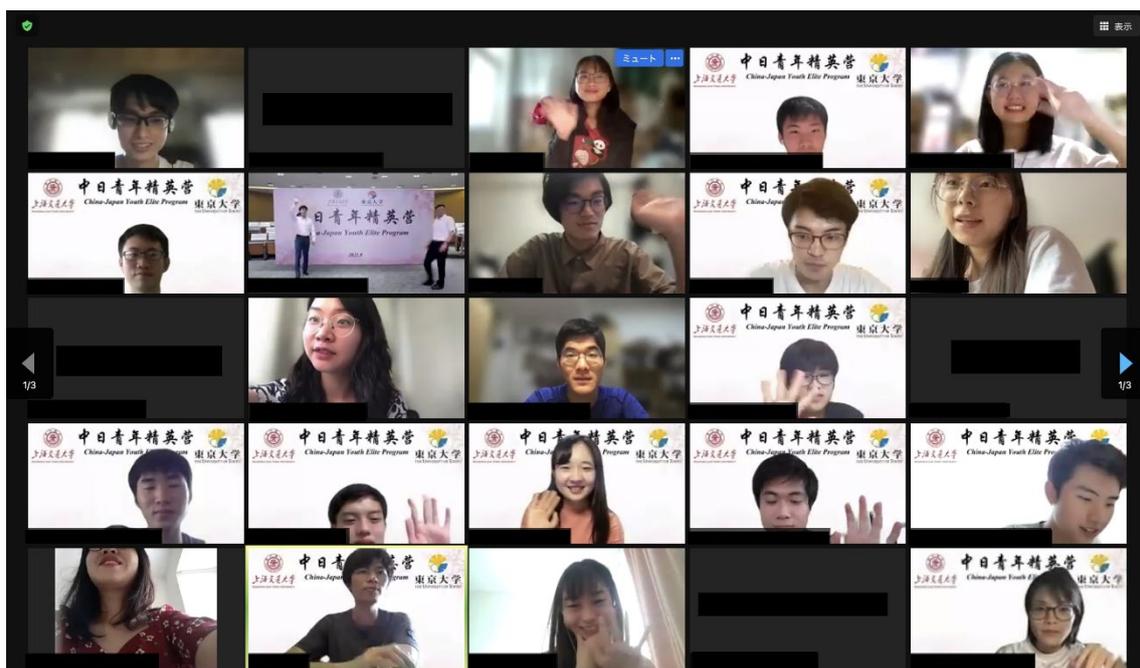
Baltimore classification: devised by David Baltimore (1975 Nobel Prize for retroviruses)

- 1. DNA viruses: smallpox, 天然痘
- 2. RNA viruses  
dsRNA : Rotavirus (without RNA replicase)  
ssRNA: Influenza-virus (with RNA replicase)
- 3. Retroviridae, レトロウイルス科  
HIV, human immunodeficiency virus

Baltimore classification, based on the mechanism of mRNA production

Brief classification, according to the nucleic acid

学術交流グループの様子



最終日修了式の様子

## 事後アンケート結果

サマープログラム終了後に参加東大学生を対象に実施したアンケート調査では、各セッションの満足度、参加前後での能力や態度の変化について情報を収集した。

### 各セッションの満足度

中国語クラス、学術交流セッション、特別講演会の満足度を5点（とても満足した）～1点（まったく満足しなかった）の5段階で評価してもらった。それぞれの評価項目に対する評価の平均値と標準偏差を算出した結果を以下で報告する。

※ 標準偏差：データのばらつきを示す指標で、値が大きいほどばらつきが大きい（回答者の回答が異なっている）。

## 中国語クラス

中国語クラスに対する満足度の平均は 4.9 点、中間レベルチェックは 4.6 点、測定試験・報告会は 4.7 点という結果になった（表 1）。概ね参加学生から高く評価されているものの、中間レベルチェックは上級クラスの学生から比較的 low に評価されていることと（平均 3.8）、測定試験・報告会に対する評価はばらつきが比較的大きいことが明らかとなった。

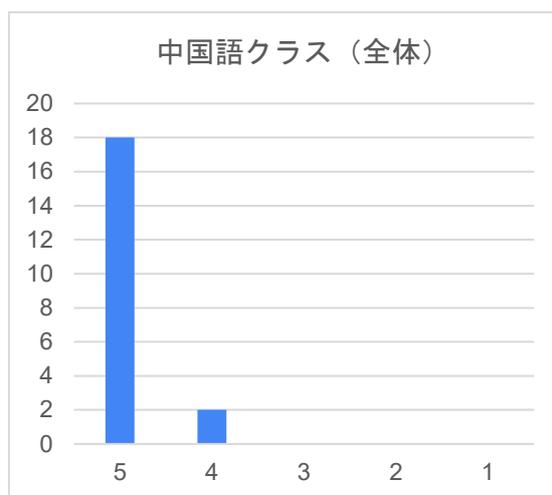


表 1：中国語クラスの満足度

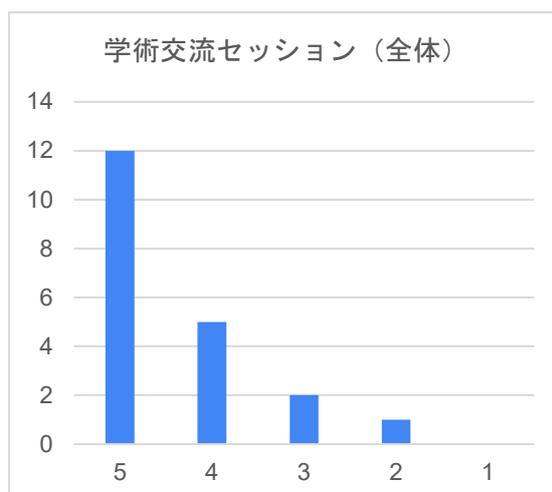
|           | 全体 (標準偏差) | 初級  | 中級  | 上級  |
|-----------|-----------|-----|-----|-----|
| 中国語クラス    | 4.9 (0.3) | 4.8 | 4.9 | 5.0 |
| 中間レベルチェック | 4.6 (0.7) | 4.7 | 4.8 | 3.8 |
| 測定試験・報告会  | 4.7 (0.8) | 4.8 | 4.6 | 4.5 |

## 中国語クラスについての所見

- ・ 上海大学の先生はとても熱心に中国語を教えてくれた。
- ・ 中国語クラスで一对一で発音の練習を見てもらえる体制になっているなど、とても快適に授業を受けることができました。
- ・ 中国語の授業では一人一人に話す時間を与えて頂いたり、中国語の作文を毎日見て下さったりするなど東京大学の学生に対して非常に丁寧に対応して下さいましたのが印象的です。
- ・ 中国語のクラスの中でも、レベルの差が大きく、もっと細かくクラスを分けていただくとありがたいです。

## 学術交流セッション

学術交流セッションに対する全体評価の平均値は 4.4 点、中間発表は 4.1 点、最終発表は 4.5 点という結果になった（表 2）。概ね参加学生から高く評価されていることが明らかになったものの、生物医学グループに参加した学生の中間発表に対する評価が比較的低かった（平均値が 3.0 点）など、グループごとの評価には多少ばらつきが確認された。



なお、紙幅が限られているため、表中では以下の凡例にしたがってグループ名等を表記する。

- ・ 全：全体
- ・ SD：標準偏差
- ・ 生：生物医学
- ・ 電：電子電気工学
- ・ 法：法律
- ・ D：DX とジェンダー
- ・ レ：レジャー・ツーリズム

表 2：学術交流セッションの満足度

|                   | 全 (SD)    | 生   | 電   | 法   | D   | レ   |
|-------------------|-----------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学術交流セッション         | 4.4 (0.9) | 4.0 | 3.8 | 5.0 | 4.5 | 4.5 |
| 各学術交流グループ<br>中間発表 | 4.1 (1.0) | 3.0 | 3.8 | 4.5 | 4.5 | 4.8 |
| 全学術交流グループ<br>最終発表 | 4.5 (0.9) | 3.8 | 4.0 | 5.0 | 4.8 | 4.8 |

## 学術交流セッションについての所見

- ・ 学術交流セッションの内容が濃くて良かった。
- ・ 学術交流セッションについては、大変だったとの意見が多く聞かれました。実際応募する際に求められた英語のレベルを考えると英語で専門的なことを話し合えるレベルではなかったため学術交流では元々話題も堅く話しづらいのに加え言語の壁があり、少し意思疎通の取りにくい場面もありました。また、多くの学生が先生の話す英語がほぼわからなかったと言っていました。一方でこのセッションはジェンダーについて中国の事情を伺える貴重な機会になったことも事実です。そのため、発表に求めるレベルを

やや低くして学生の負担を減らしつつ学術的な内容について話し合える場を設けるのが良いのではないかと考えました。

- ・ 学術交流の時に担当してくださった先生が、あまり英語が得意でないようで、日本語や中国語での説明が主でした。英語での授業受講の練習をしたいという期待があったので、少し残念でした。また、普段の専攻と学術交流の内容が違う学生も多かったのですが、少し内容が専門的すぎたように思います。

### 参加前後での能力や態度の変化

本プログラムでの学習成果を評価するために、第 2 言語でのコミュニケーション能力など 16 の項目について、5 (とてもそう思う) から 1 (全くそう思わない) の 5 段階で回答してもらった。概ね高い評価が得られたものの、「物事に対し、クリティカルに考えられるようになった」、「リーダーシップを発揮できるようになった」、「ボランティアなど、周囲への貢献に取り組むようになった」といった項目はデータのばらつきが比較的大きく、学生によって評価が分かれていることが示唆された (表 3)。

なお、紙幅が限られているため、前節で用いた凡例にしたがってグループ名を表記する。

表 3：参加前後での能力や態度の変化

|                                  | 全<br>(SD)    | 生   | 電   | 法   | D   | レ   |
|----------------------------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|
| 学習・研究において成果を出すことができた             | 4.4<br>(0.8) | 4.3 | 4.5 | 4.5 | 4.0 | 4.5 |
| 第二言語で発言するなど、プレッシャーのもとで過ごす耐性が強まった | 4.6<br>(0.6) | 4.0 | 4.8 | 5.0 | 4.5 | 4.8 |
| コミュニケーション力が高まった                  | 4.4<br>(0.7) | 3.8 | 4.0 | 5.0 | 4.5 | 4.5 |
| 参加前に比べて、新しいことに挑戦する自信が高まった        | 4.6<br>(0.6) | 4.3 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 4.5 |
| 物事に対し、クリティカルに考えられるようになった         | 3.9<br>(0.9) | 3.0 | 3.5 | 3.8 | 4.5 | 4.8 |
| 語学力を伸ばすことができた                    | 4.5<br>(0.7) | 4.3 | 4.5 | 4.8 | 4.5 | 4.3 |
| 自立心・自尊心が高まった                     | 4.2<br>(0.6) | 3.8 | 4.3 | 4.3 | 4.3 | 4.5 |
| リーダーシップを発揮できるようになった              | 3.9<br>(0.9) | 3.5 | 3.8 | 4.0 | 4.0 | 4.3 |
| 新しい友人を作ることができた                   | 4.7          | 4.5 | 4.8 | 5.0 | 4.8 | 4.5 |

|                            |              |     |     |     |     |     |
|----------------------------|--------------|-----|-----|-----|-----|-----|
|                            | (0.6)        |     |     |     |     |     |
| 物事に対し、柔軟に考えられるようになった       | 4.3<br>(0.8) | 4.0 | 3.8 | 4.8 | 4.3 | 4.8 |
| 問題解決力が高まった                 | 4.1<br>(0.8) | 3.5 | 3.8 | 4.3 | 4.3 | 4.8 |
| 活動において、協働性を高めることができた       | 4.4<br>(0.8) | 4.0 | 4.5 | 4.5 | 4.5 | 4.3 |
| ボランティアなど、周囲への貢献に取り組むようになった | 3.7<br>(0.8) | 3.3 | 3.5 | 3.8 | 3.5 | 4.5 |
| 将来のキャリアがより明確になった           | 3.5<br>(0.7) | 3.0 | 3.0 | 3.5 | 3.8 | 4.3 |
| 海外で学ぶことへの関心が高まった           | 4.6<br>(0.6) | 4.0 | 4.8 | 4.8 | 4.8 | 4.8 |
| 海外で働くことへの関心が高まった           | 4.4<br>(0.8) | 4.3 | 4.5 | 4.8 | 4.5 | 4.0 |

#### 能力や態度の変化に関連する所見

- ・ 中国語クラスの内容には満足しており、自分の中国語能力も向上したように思う。一方、学術交流では踏み込んだ議論がほとんどできなかったように思う。それについては物足りなかった（生物医学所属学生）。
- ・ 中国語学習においては濃密な7日間を過ごすことができました。中でも私は初学者で間違えるのは当たり前であるのだから間違いを恐れずとにかく話す練習をするということが一番に教わりました。東大の授業では間違えるとなぜ間違えるのか、という視線を向けられることが多く息が詰まるような思いで語学を勉強していたような気がしますが、今プログラムに参加し改めて語学学習の楽しさを感じることができ学習への意欲を持つことができました。
- ・ 満足している点は多々ありプログラムの本筋からは離れてしまうが、オンラインでも、日本でもまだできることが沢山残っていると実感できたことが最も有意義であったと思う。このコロナ禍で人との交流を持つことはなかなか難しいが、それでもこれだけ多くの今後につながるような出会いがあったことは制限のある状況下でもできることに精一杯取り組んでいこうという気持ちを芽生えさせる希望となった。いつか上海に行って、再会できることを強く願っている。
- ・ 一番は中国に友人ができたことが嬉しいです。オンラインのプログラムでしたが、みんな積極的に交流しようとしてくれて、zoom や Wechat でたくさん話すことができました。プログラムに参加する前は中国語もできず、中国文化についてもほとんど知らない状態でしたが、プログラムを経てすごく興味がわきました。

- ・ コロナ禍においても、能動的に海外交流にチャレンジしたぞ、また自分の世界が広がったぞ、と自分の自信につながった。また大学に入ってから英語学習、第2外国語学習のモチベーション向上に非常につながった。コロナが終息したら上海の学生たちと上海交通大学で絶対に会いたい。
- ・ 実際の中国人と会話をしてみて、自分が以前抱いていた中国に対するイメージがいかにステレオタイプのものであったかを実感した。また、中国社会の仕組みの新鮮さに驚いた。
- ・ このプログラムは大学で勉強することや英語を学習することへのとても良いインセンティブになったと思います。このプログラムを通して、中国の学生の方々はとても英語が上手で、積極的に私よりも数段上だなと感じることが多々ありました。また、具体的に何がか特定することは難しいのですが、中国という国自体のパワーを感じました。このような実感を得るということは日本にいて東京大学という狭い枠組みの中で生活しては得ることができないものだと思います、そのような意味でこのプログラムはとても有意義なものだったと思います。
- ・ 当たり前のことかもしれないが世界には様々な考え方があり、その相互理解に努めていかなければいけないことを改めて実感した。もちろんそのために色々な場面で交流を持っていくことも必要だと思ったが、自らの考え、価値観、軸のようなものをしっかり築いていく必要性に気がつくことができた。と同時にそのために大学で学びを深めていきたいという新たなモチベーションにもつながった。
- ・ 中国及び世界で働くことが身近に感じるようになった。
- ・ 中国の大学へ留学することや中国で働くことも一つの選択肢であると考えられるようになった。
- ・ 今まで海外で就職するという選択肢は考えたことがなかったのですが、中国で就職したOBの方の話を知ったり、日本で就職したいと言っているSJTUの学生の話を知ったりして、就職に関して視野が広がりました。
- ・ 私は将来のキャリアについて具体的なことはそこまで考えていないのですが、今回のプログラムを経て海外の企業へ就職するなどの選択肢も見えてきたように思います。現時点で海外企業を志望しているわけではないのですが、選択肢が広がったという点でキャリア観に良い影響があったと感じます。